

山形県 公立高校の入試制度

【2026年度版】

選抜概要

- 山形県の公立高校入試は、2026年度から大きく変わります。選抜機会は主に前期(特色)選抜、後期(一般)選抜の2回です。前期は学校ごとにAかBどちらかの日程で実施します。(2026年度は A日程34校, B日程8校)

		出願期間	入試日	合格発表日
前期 (特色)	A 日程	1/5(月)～8(木)	1/20(火)	1/29(木)
	B 日程		2/3(火)	2/12(木)
後期(一般)		2/18(水)～24(火)	3/7(土) (一部適性検査3/8)	3/17(火)

- 出願は、原則1校1学科に限りませんが、後期選抜においては、2つ以上の学科がある学校に限り、第3志望まで出願できます。
- 普通科、理数科及び探究科の通学区域は原則として、東学区・北学区、南学区、西学区の3つに分かれています。そのほかの学科は全県1学区とし、いずれの高校にも志願することができます。

前期(特色)選抜

- 各学校の特色やアドミッション・ポリシーをもとに設定した出願要件を満たすものが出願可能です。出願要件には評定、スポーツ・文化・ボランティア活動、資格などがあります。
- これまでの推薦選抜は職業科や専門学科等で実施されていましたが、前期選抜はすべての学科で実施されます。これにより、普通科の受験機会が2回に増えました。
- 募集人員は定員の5%～50%以内です。ただし、県外募集を実施する場合は定員の70%以内、音楽科は60%程度、体育科は80%程度です。
- 調査書及び各校が選択した検査の結果に基づき選抜します。検査は、以下のうち1～3つを選択して行います。
面接, 作文, 発表, その他(小論文・実技・口頭試問・学校ごとの学力検査等)
- 合格した場合、後期選抜に出願することはできません。

後期（一般）選抜

●選抜内容

学力検査	国語・数学・英語・理科・社会の5科（各50分・各100点） ・学校の裁量で、1教科又は2教科に1.5倍の傾斜配点を取り入れることもできる。
適性検査 （体育科・音楽科のみ）	・山形中央（体育科） 体力診断テスト（3種目）及び 陸上競技・水泳・サッカー等の12種目から1種目を選択 ・山形北（音楽科） 声楽 または 器楽を選択

- 選抜は、調査書・学力検査（及び適性検査）の結果をもとに、各学校・学科の特色に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性を判定して行います。

選抜方法

- 学力の総合段階及び調査書中の記載事項を主な資料として行います。

<学力の総合段階>

- ・調査書の評定（3年次9教科5段階）と学力検査の成績をそれぞれ500点満点に換算します。各高校が定めた調査書点と学力検査点の比率をそれぞれに乗じて算出した得点の和が合計得点となります。比率は次のいずれかとなります。

調査書：学力検査 ＝ 3：7，4：6，5：5，6：4，7：3

【例】調査書：学力検査＝4：6の場合

$(\text{評定合計}) \times 500 / 45 \times 0.4 + (\text{学力検査点} 500 \text{点満点}) \times 0.6 = \text{合計得点}$

- ・学力検査で1教科に傾斜配点がある場合
 $(\text{評定合計}) \times 500 / 45 \times 0.4 + (\text{学力検査点} 550 \text{点満点}) \times 500 / 550 \times 0.6 = \text{合計得点}$
- ・学力検査で2教科に傾斜配点がある場合
 $(\text{評定合計}) \times 500 / 45 \times 0.4 + (\text{学力検査} 600 \text{点満点}) \times 500 / 600 \times 0.6 = \text{合計得点}$
- ・受検者の合計得点について、分布が連続しているとみなされる部分の最高と最低の間を等間隔に5段階に分けます。
- ・体育科・音楽科では適性検査の結果も考慮して合格者を決定します。
- ・調査書中の総合的な学習の時間の記録，特別活動の記録，郊外活動の記録，特記事項についても考慮します。1・2年次の評定については考慮されなくなりました。